

建設産業における ワーク・ライフ・バランス
の実現にむけて

ひとつ「働き方」を変えてみよう!

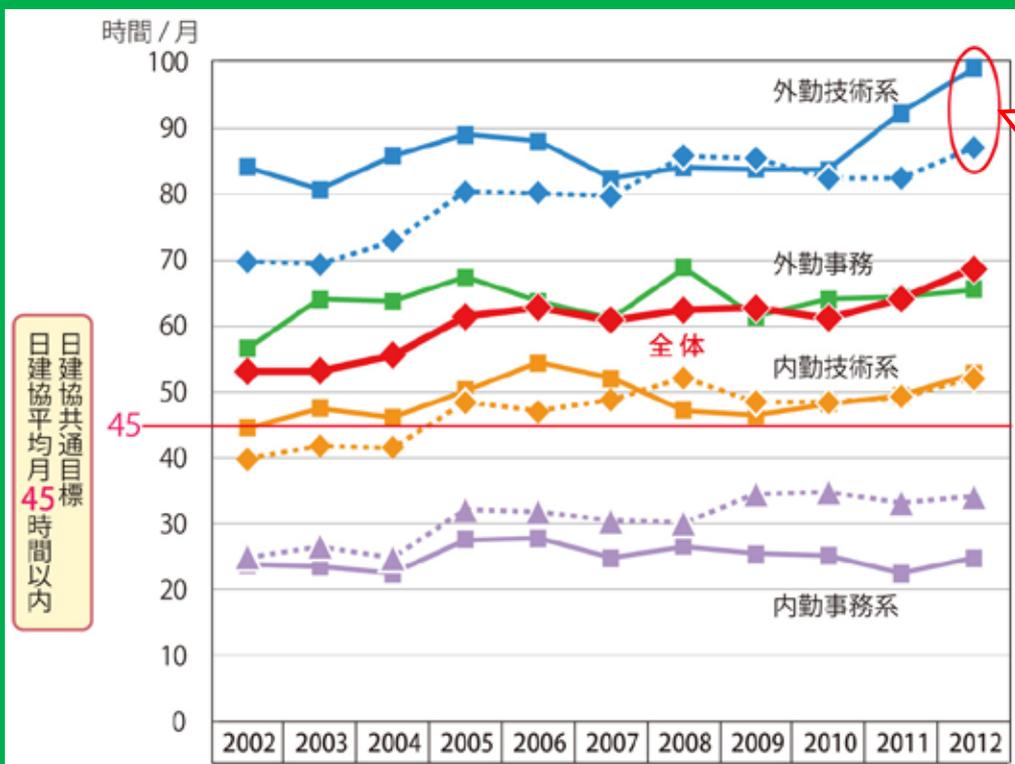


カエル! ジャパン
Change! JPN

R48^週^休 ROADMAP

[オールよんぱち] 2013.9.30 No.17

日建協 組合員所定外労働時間の推移



11月の所定外労働時間の平均は外勤土木で87.0時間、外勤建築で99.1時間と高い値となっています。



出典：日建協「2012 時短アンケートの概要」

統一土曜閉所

6月統一土曜閉所結果

閉所できなかった理由は「工期が厳しい」

建築提言

日本建築学会 建築生産シンポジウム

特別企画で 労働環境について発表

コラム

レザークラフトの魅力

馬淵建設職員組合 宇賀神 浩祐 さん

次号予告

■産業政策活動

女性技術者会議開催

■提言活動

■コラム

お知らせ

「Roadmap48」とは

建築工事の4週8休(週休2日制)での工期設定の実現や、公共工事における労働条件向上と諸課題の解決にむけた提言活動など、日建協の活動を組合員の皆さんに知っていただくための広報誌です。

①組合活動の資料として、②職場での情報交換の材料としてご活用ください。

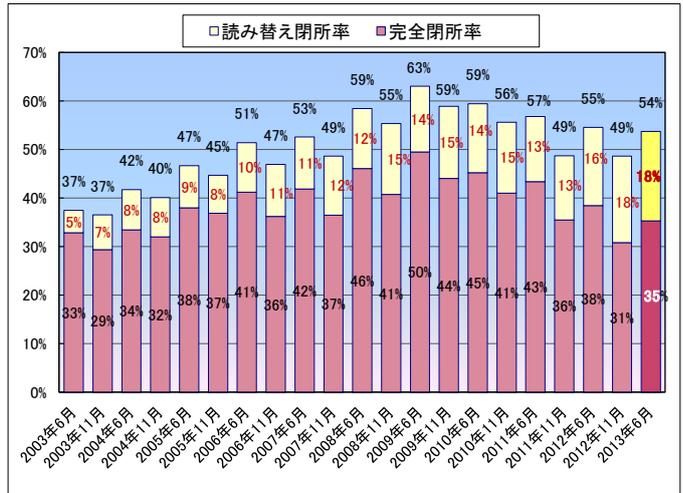
- 次号の予定は変更する場合があります。
- この広報誌は日建協ホームページからダウンロードできます。
<http://nikkenkyo.jp>

日建協

閉所できなかった理由は「工期が厳しい」

2013年6月9日、日建協は37の加盟組合とともに22回目の『統一土曜閉所運動』に取り組んだ。全体の閉所率は54%となった。短工期や技能労働者不足など作業所を取り巻く環境に改善の兆しが見られなかったことから前年同月と比べて同水準で推移した。今回から、閉所できなかった理由も合わせて調査したが、「工期が厳しく、土曜閉所が組み込めない」が全体の43%、「工期に余裕がなく、計画工程上も作業日としていた」が全体の22%と、工期的な要因を閉所できなかった理由とする作業所が、6割以上を占めている。

日建協では、適正な工期を「働く全ての人たちがきちんと休める工期」と考えている。統一土曜閉所運動へ取り組むことにより、土曜日を休める適正な工期の実現をめざしていく。



コラム

馬淵建設職員組合
宇賀神 浩祐 さん



レザークラフトの魅力

使い込むほどに馴染んで味わい深くなる革製品はとても魅力的です。特にタンニン鞣しのヌメ革は、使用と共に肌色から飴色へと日焼けが進み、経年変化を楽しむことが最大の魅力だと思います。しかし、そういった本格的な革製品は高価なものが多く、なかなか手軽に買うことはできません。

「だったら作っちゃえ！」

私がレザークラフトを始めたきっかけは、そんな考えからでした。いざ始めてみると想像以上に楽しいことばかりで、あっという間に革の魅力にとりつかれました。

一つの作品を仕上げるには、デザインを決め、型紙を作り、一枚の革からパーツを切り出し、組み立てて縫い上げていくのです。こういった様々な工程を経て作品は完成します。特に時間がかかったり苦勞した作品ほど出来上がったときは嬉しいものです。

また、革製品には使いながら育てていく楽しさもあります。いくつもの工程を経て出来上がる革製品ですが、作り終えただけでは未完成な状態です。手入れをしながら大切に使い込むことで、日焼けし、馴染み、使う人の生活と調和して初めて完成するものだと思っています。

レザークラフトを始めて2年半。自分や家族のバッグやサイフは一通り作り終えましたが、まだまだ飽きる気配はありません。私にとってレザークラフトはこれからもずっと長く続けていく趣味となりそうです。これからも作ることで育てること、二つの楽しみを満喫していきたいと思います。

建築提言

日本建築学会 建築生産シンポジウム

特別企画で労働環境について発表

日建協は第29回建築生産シンポジウムの特別企画において「建築工事作業所の労働環境改善をめざして」と題し論文形式の報告発表を行った。本発表では組合員約1万人が回答した時短アンケートから建築技術者の労働環境の実態が示され、建築工事作業所の労働環境改善をめざした民間建築工事の「4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定」の実現にむけた活動について報告した。

99・1時間となっており、労働時間の長時間化は建設産業の入職者の減少や若手技術者の離職につながっているとされている。休日取得できない要因のひとつとして、工期設定が考へられている。その理由として、外勤建築の83・3%が4週4休以下の工程となっていることから、そもそも土曜日に仕事を予定している厳しい現状が示された。過度に短い工期設定を見直し、休日閉所できる環境づくりを考えた必要があると述べている。

民間建築工事には閉所や休日に関するルールがなく、工期が適正であるか判断する基準もないことからこうした現状が起きています。日建協の行っている民間（旧四合連）協定工事請負契約約款の改定にむけた取り組みや、日建協標準工期の活用をめざす取り組みの紹介がされた。最後に「4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定」により健全な労働環境を実現させることは、建築生産システムを健全化させるだけではなく、建設産業の魅力向上させることにつながると報告された。